

令和 7 年度市民活動助成金二次募集 2 次審査要旨録

日	時	令和 7 年 6 月 19 日(木)10:00~12:00
場	所	市民交流センター
出席者（敬称略）	日本福祉大学 特任教授 千頭 聡 NPO法人 ぱれっと 副理事長 戸田 愛 一般社団法人 SDGs design 代表理事 曾根 香奈子 企画部 部長 大木 康敬 企画部市民協働課 課長 渡辺 富之	
事務局	市民協働課 主幹 竹内 雅香子 市民協働課 主査 天野 利紀 市民協働課 竹内 明日香	

1. 2 次審査（質疑応答による審査）

はじめの一步部門（1）成岩第三区神子舞保存会

- 団体 過去は口伝が主で限られた人のみに関わる形式であったが、現在は保存会を立ち上げ、メンバー募集や定期的な集まりを通じて歴史を共有。神子舞に興味を持つ人に活動を体験できる場を提供する形で進めている。
- 委員 保存会の活動資金や会費設定の現状について教えてください。
- 団体 現在は保存会が立ち上がったばかりで、活動資金は成岩第三区や神戸公民館に依存している状況。保存会の会員間での団結力を高め、一人一人が役割を自認することで、会費の必要性を会員自身が認識するような形を目指している。
- 委員 助成金が不採択となった場合、どのように対応する予定ですか。
- 団体 採択を願っているが、不採択でも前向きに取り組む。神子舞は地域の宝であり、保存会の役割はその価値を伝え、地域の人々に大切さを知ってもらうことと考えている。費用や保存会単独の力には限界があるため、地域のモチベーションを高めることが重要。
- 委員 神子舞の継承活動が地域振興にどのように繋がると考えていますか。

団体 神子舞を守り継承することが保存会の役目であり、それを通じて観光振興などが生まれることを期待している。地域の方々が神子舞を「他人事ではなく自分事」として捉えられるような環境づくりを目指している。

はじめの一步部門（２）雅楽と書道の会

委員 講師謝礼について教えてください。

団体 謝礼は当日出演していただく方に支払うものとして計上している。

委員 発表会の目標来場者数 100 名に向けた具体的な集客活動を教えてください。

団体 SNS（Instagram、Facebook）で告知を実施。瀧上工業雁宿ホール、アイプラザ、亀崎公民館など市内約 15 ヶ所にチラシを配布し、現在ほぼ配布済み。約 60 名には手紙を郵送して直接案内。書道教室の生徒にもチラシを配布し、知人に広めてもらっている。

委員 今回の活動の目的や背景を教えてください。

団体 今年 1 月に赤レンガ建物で開催した「雅楽と書道の会」で、来場者の多くが雅楽を初めて知ったことを受け、改めて雅楽の魅力を広めたいと考えた。亀崎地域は文化や伝統が豊かな場所であり、地域の発展性を考慮し、神前神社の雅楽部と協力して発表会を企画。地域貢献や雅楽の後継者育成を目指している。多くの人に雅楽を知ってもらい、興味を持ってもらいたい。

委員 赤レンガ倉庫で開催したイベントの来場者数や反響について教えてください。

団体 正確な人数は不明だが、会場の入口付近まで満員になり、用意した 40 脚の椅子が全て埋まるほどの来場があった。立ち見の方も多く、特に高齢者や中年層が多かったが、若い方の参加もあった。

委員 年間を通じた活動計画を教えてください。

団体 毎週木曜日に亀崎公民館で 19 時から 21 時まで練習を継続。神前神社の雅楽部の活動に参加。今後は学校と連携し、子どもたちに雅楽を体験してもらう活動も目指している。

委員 予算にある楽器の賃借料について教えてください。

団体 笛などの小型楽器は自前で所有しているが、太鼓などの楽器は所有していない。演奏会では太鼓を借りて使用。神前神社には小型の太鼓があり、それを借りて練習することもある。

委員 他地域との交流や連携について教えてください。

団体 乙川には「飯森雅楽愛好会」があり、住吉神社にも雅楽活動者がいる。神前神社との繋がりを活かし、将来的に協働で活動できるような関係づくりを進めている。

はじめの一步部門（３）愛知に学びの場を拡げる会

団体 障がいのある新卒１年目の離職率は４２％で、障がいのない方（２０％）の約２倍に上る。離職後、障がいのある方は引きこもりやうつ、貧困に繋がるケースが多い。

ビジョンは「学びの機会を通じて自分らしく生きられる社会を目指す」ことであり、ミッションとして、障がいのある方に学びの機会を提供する活動を行っている。

委員 会員の状況や、行政等との連携状況を教えてください。

団体 現在の会員数は７名。SNS フォロワーは４３４名。ボランティアを含めると運営メンバーは２０名弱となる予定。

知多半島の５市５町の福祉課や教育委員会、自立支援協議会、日本福祉大学、市民活動団体と連携し、広報活動や説明を行っている。

講演会には、福祉系事業所関係者、保護者（就学前の子どもの親を含む）が参加している。

団体 障がいのある方が利用する既存の事業所に学びの要素を追加し、余暇活動だけでなく学びの機会を提供するプログラムを構築する。障がいの軽重に応じた伴走支援を検討し、既存の団体と連携していく。

アンケートや実態調査を通じて地域課題を可視化し、その結果を社会に発信していく。

委員 事業の収支予算を見ると、補助金や寄付金への依存度が高いように思えま

す。将来的な資金調達の見通しはありますか。

団体 現在は補助金や寄付金に依存しているが、クラウドファンディング、会員制度の導入、協賛企業スポンサーの獲得を検討している。

文部科学省が生涯学習を推進しているが、現時点では障がい者の学びに特化した補助金はないという認識。

委員 学びの場が必要だと感じている保護者や教育現場のニーズはどの程度あると考えていますか。

団体 保護者や教育委員会などの間で必要性を感じている声は多い。ただし、現行の仕組みでは 18 歳卒業後すぐに就労する流れとなり、学びの場を提供する余地が少ないのが現状。実態調査やデータ収集を進め、地域課題を具体化・可視化することが重要と考えている。

ステップアップ部門（１）半田青色申告会

委員 子育て中の女性や高齢者、障がい者に対するニーズや課題をどのように想定し、具体的にどのような方法で支援を届ける計画ですか。

団体 これまで地域の個人事業主（例えば床屋さん、喫茶店など）を対象に支援してきたが、社会の変化により、子育て中の女性や定年後の高齢者、障がい者が起業を目指すケースもある。これらの層に向けて、起業やお金の知識など基礎的な学びを提供する。事務所を 1 階に移転し、自由に利用できるフリースペースを設ける予定。

委員 どのような優先順位で取り組みますか。

団体 起業を目指す全ての方を対象とし、特定の層に優先順位を設ける予定はない。全ての方が正しく記帳し、安心して事業をスタートできるよう支援を行う。

委員 税務署のサービスや YouTube などの既存情報に対して、貴団体ではどのような価値を提供するのですか。

団体 近年、女性や定年退職後の男性など、多様な層が当会に興味を持つようになった。税務署や YouTube では一般的な情報提供が行われているが、「何を言っているか分からない」という声が多い。当会では、事業者が直面する具体的

な課題に寄り添い、基礎的なサポートを提供している。

委員 相談窓口やフリースペースの設置を計画しているが、具体的にどのような取り組みを行うのですか。

団体 これまで広報や外部へのアプローチが十分でなかったため、看板や広告を通じて団体の活動内容を広く伝えたい。昨年開催したマルシェや超基礎講座が好評で、今後も実施する計画。

委員 子育て中の女性や高齢者、障がい者に対して、どのように PR やアプローチを行う予定ですか。

団体 SNS を活用して情報を発信しているが、広報手段に関する知識が不足しているのが課題。アプローチを模索しているが、十分な成果が出ていない。地道にマルシェなどのイベントで無料相談やセミナーを実施し、情報を届けていく計画。

委員 子育て中の女性、高齢者、障がい者というキーワードを明確に PR や広報に反映するべきと考えます。商工会議所や子育てサークルなどとの連携を図り、相談者を引き継ぐ仕組みを構築してはどうでしょうか。

委員 市民活動助成金申請の目的は、会員ではなく、広く市民に展開するためであると理解しています。子育て中の女性、高齢者、障がい者への具体的なアクションを明確にしてください。

チャレンジ部門（１）特定非営利活動法人共育ネットはんだ

委員 現在の連携先や今後の展望について教えてください。

団体 現在の連携先は主に青木農園のみ。他の連携先は現在持っていない。今後、日本福祉大学と連携予定。

委員 昨年度の成果や印象的なエピソードを教えてください。

団体 偏食の克服が印象的で、普段野菜や餅を食べない子どもたちが、自ら育てた野菜や作った餅を食べ、親御さんも驚きと喜びを感じていた。

委員 今年度はどのような点に力を入れて取り組む予定ですか。

団体 昨年度の食育の成果を踏まえ、育てた作物で「おもてなし」をする新たな取

り組みを計画している。子どもたちが自ら育てた作物を通じて、お客様に提供する経験を積むことで、更なる成長を目指す。

委員 定員オーバーなどで参加できなかった子どもたちへの支援について考えはありますか。

団体 全ての希望者を受け入れることは難しい。試行錯誤しているが、日程調整やスタッフ不足、連携先農家の事情などの課題があるため、限界があるのが実情。

昨年度の参加者から継続参加の希望が多いが、新規参加者も受け入れたい。チラシに昨年の感想を掲載し、新規参加者を募りながら、両方のニーズに応えたい。

委員 福祉として関わる中で、企業にどのような役割を期待していますか。

団体 子どもたちが将来的に農業や関連分野で活躍できる場を提供することを期待している。農業体験を通じて、適性を見つける機会を増やし、受け入れてくれる企業が増えることを望んでいる。そういう意味でも、活動の成果を発信し、理解を深めたい。

委員 収支予算における謝金について教えてください。

団体 謝金は全て連携先農家に支払っている。農家の負担が大きい中で、持続可能な形での連携を目指しており、農家とウィンウィンの関係となるよう努力している。

委員 不登校児童生徒の受け入れや支援についての考えはありますか。

団体 サードプレイスとして不登校児童生徒の受け入れも検討している。子どもたちの居場所づくりを進めたい。

委員 子育て相談課との協働確認書に基づく効果や今年度の期待について教えてください。

担当課（子育て相談課） 昨年度の活動を通じて、子どもたちが自発的に取り組む姿勢が見られた。子どもたちの自発的な活動が親御さんにも良い影響を与え、親子ともに積極的に参加する様子が印象的だった。

屋外活動を通して、障がいのある若者も気軽に参加できる場づくりを進めることで、スタッフ不足の解消やボランティア活動の促進に繋げたい。

委員 人材不足に関する課題や、正会員・賛助会員の状況について教えてください。

団体 賛助会員は事業に参加している方々が中心で、運営の手伝いに来ることは難しい。正会員は増加しておらず、課題が残る状況。ただし、事業に参加した親御さんがサポーター的な役割を果たしてくれるケースがある。強制はできないが、今後もそうしたサポーターが増えることを期待している。

2. 審査結果

審査結果 評価合計点数が評価基準点を満たした4団体を採択

<はじめの一步部門>

- ・成岩第三区神子舞保存会
- ・雅楽と書道の会
- ・愛知に学びの場を拡げる会

<チャレンジ部門>

- ・特定非営利活動法人共育ネットはんだ

3. 審査講評

成岩第三区 神子舞保存会（採択）

伝統ある神子舞を地域の大切な文化として後世に受け継ぐため、「神事」としての継承と理解を目指し、保存会を立ち上げられたことに深い敬意を表します。区や祭り関係者との連携という今後の課題にも真摯に向き合いながら、神子舞の本質を守ろうとする姿勢は非常に意義深く、その想いと行動力に心から応援するとともに、文化の灯を絶やさぬよう、志ある人々がさらに集まり、地域とともに歩んでいくことを期待しています。

雅楽と書道の会（採択）

雅楽と書道という日本の伝統文化を広め、次世代に継承するという素晴らしい目的を持つ取組であり、地域文化の活性化に貢献する可能性を感じました。

神前神社雅楽会との連携や地域住民への丁寧なアプローチなど、多くの方に関心を持っていただける工夫を今後も続けていただき、また、若い世代への

普及に向けて、学校との連携など、取組が具体化されると、事業の魅力が一層高まると思います。

多くの方に雅楽と書道の魅力を届けられることを期待しています。これからの活動の発展を心から応援しています。

愛知に学びの場を拡げる会（採択）

障がいのある人の「学ぶ機会」の保障をすることはとても大切な視点であり、そこに着目した取組は高く評価します。「学びの場」には従来から日曜学校という取り組みやピアサロン（ピアサポート）がありますが、今回の講演会を契機に、また違った形での「学びの場」が実際に創出されるような動きになっていくことを期待しています。

半田青色申告会（不採択）

子育て中の女性、高齢者、障がいのある方など、多様な背景を持つ方々の働き方を支援し、地域全体の活性化を目指す取り組みは重要だと思います。SNSの活用やマルシェへの参加といった新たな試みも、地域において親しみやすい窓口を目指す工夫として好感が持てました。

一方で、特に、支援対象者への具体的なアプローチ方法や重点的な取組内容が曖昧で、助成金を活用して何を行い、どのような成果を目指すのかが見えづらい点がありました。

今回の取り組みを通じ、青色申告会の強みを生かしながら、地域課題の解決に貢献する効果的な支援活動が展開されることを期待しています。

特定非営利活動法人共育ネットはんだ（採択）

活動の中に、親子の心身の健康回復、子どもの働くことに対する意欲の向上、自然とふれあう機会の充実、親子それぞれのホッとできる居場所づくり、食育、子どもに対する切れ目のない支援など、互いに相乗効果を生み出す多彩な効果が織り込まれている点に深く敬意を表します。個々の農家の献身的な協力の過度に頼ることなく、仕組みとして定着・発展できるといいですね。

活動に参加した子どもや親が、無理なく自然に、活動を運営する側に回るような流れが出てくることを期待しています。